

地球温暖化の影響を小さくするためには

私たち一人ひとりが今すぐ行動を起こし、2050年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルの実現が不可欠です。

また、国内はエネルギー資源が乏しく、海外から輸入する化石燃料に依存していて、これらの問題に対応するためにも、脱炭素の取り組みが重要です。

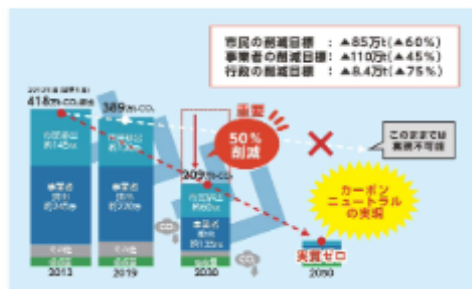
「ゼロカーボンシティ」宣言

2021年9月に、本市は、2050年までに温室効果ガス排出を実質ゼロにする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことを宣言しました。

その実現に向けては、CO₂の排出を2030年度までに、2013年度と比べて50%削減しなければなりません。

どうして2050年まで？

気候変動に関する政府間パネル（IPCC）「1.5℃特別報告書」の中で、世界の平均気温の上昇を産業革命以前から、1.5℃の水準に抑えるためには、2050年前後のCO₂排出量を実質ゼロとなる必要との見解が示されました。



TOPIC

カーボンニュートラルロードマップ 1028927

2050年までのカーボンニュートラルの実現に向けて、本市全体で長期的なビジョンを共有し、市民・事業者・行政が一丸となって取り組んでいくことを目的として、ロードマップを策定しました。



詳しくは、市団をご確認ください。

カーボンニュートラル実現のための3つのアクション

大胆に！かえる

移動をエコで快適に、スマートムーブを心掛けよう

- ▼毎日の通勤通学やお出掛けには、公共交通機関を利用しよう。
- ▼マイカーをEV車(電気自動車)に、運転はエコドライブを心掛けよう。
- ▼心や体の健康のためにも自転車や徒歩で移動しよう。



サステナブルなライフスタイルへ、日々の行動を変えよう

- ▼レジ袋や使い捨てプラスチックを削減。無駄を見直し、ごみの減量や分別を徹底しよう。
- ▼人や環境に優しいものを、考え、選んで、購入しよう。
- ▼地元の旬の野菜や果物をおいしく食べて、食品ロスはゼロにしよう。



もっと！つくる

電気は「買うもの」から「つくるもの」へ、エネルギーを創り、そして使おう

- ▼住宅の新築・改修時には太陽光発電や太陽熱などの再生可能エネルギー設備の設置を検討しよう。
- ▼集合住宅などで、設備の設置が難しい場合は、小売電気事業者の再生可能エネルギーメニューへの切り替えを検討しよう。



みんなで！育てる

「もったいない」のこころを育み、未来の世代へつなげよう

- ▼「ひと」を大切に将来世代を担う子どもたちの優しい心を育てよう。
- ▼「もの」を大切に衣類や家具家電などを大事に長く使おう。
- ▼「まち」を大切に自分たちが暮らす地域のまちづくり活動に積極的に関わろう。



広報 うつのみや+

カーボンニュートラルなまち

うつのみやの実現

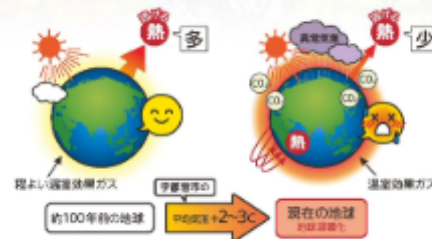
本市が目指す「スーパースマートシティ」を構成する3つの社会のうちの1つ、地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量の実質ゼロを達成し、快適で健康的な暮らしにもつながる、「脱炭素社会」の実現に向けた取り組みなどをご紹介します。

環境創造課 ☎(632)2418

地球温暖化の仕組み

今まで地球は、太陽からのエネルギーを宇宙へ反射・放出させることで、程よく温まってきましたが、現在は、CO₂やメタンなどの温室効果ガスが多くなりすぎて地球の周りに壁をつくってしまっています。

太陽のエネルギーをなかなか宇宙へ逃すことができないため、気温がとて高くなったり、異常気象が起こったりします。

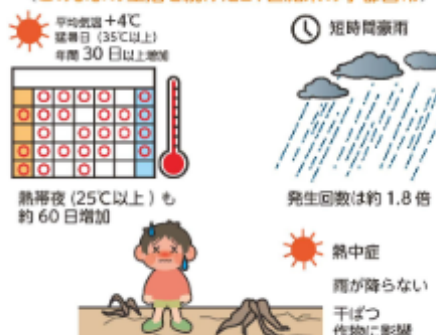


地球温暖化がもたらす影響

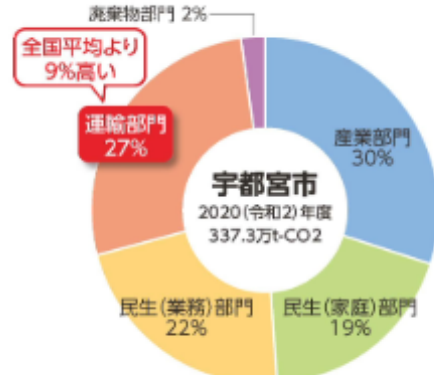
私たちがこのままの生活を続けていると、さらに温暖化は進み、今以上にたくさんの影響が出てきてしまう可能性が高くなります。例えば、猛暑日が増えたり、大雨による災害が発生したり、熱中症による健康被害などが起こったりします。

本市は、自動車の保有率が高く、運輸部門のCO₂排出割合が全国平均よりも9%高くなっていることが特徴です。

このままの生活を続けた21世紀末の宇都宮市/



本市のCO₂排出割合



「ネットワーク型コンパクトシティ (NCC)」を 基盤とした脱炭素社会の構築



～ライトライン沿線における「脱炭素先行地域」の取り組み～

取り組みにより期待される主な効果

■ゼロカーボンムーブの構築により、公共交通全体の利便性の向上が図られ、地域の活性化や交流機会が増加し、都市機能が集積した拠点が形成されることにより、自動車依存からの脱却を推進します。

これにより、運輸部門のCO₂排出量の削減や、ウォークラブルなまちづくりなど、市民の暮らしの質の向上が期待されます。

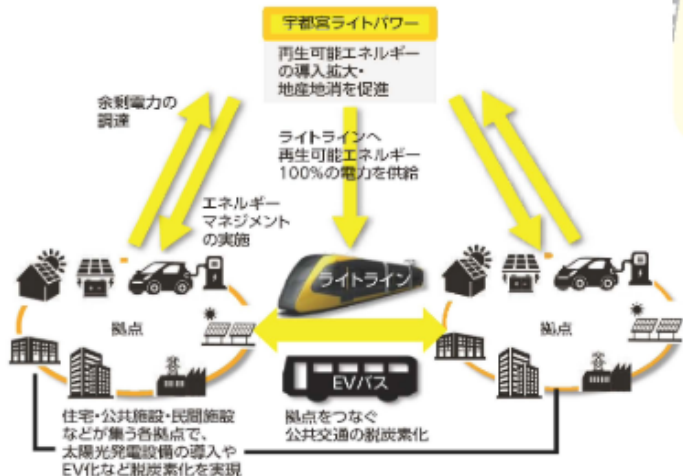
■太陽光発電設備と蓄電池を同時に導入することによって、各対象施設における電力の自家消費が高まります。

また、宇都宮ライトパワーがエネルギーマネジメントを行うことで、蓄電池やEV車を制御し、地産地消率を高めるとともに、地域内での経済循環を図ります。

■地域防災拠点や一時避難場所などにおいて、太陽光発電設備や蓄電池を設置することにより、防災対応力の強化を図り、安全・安心なまちを実現します。



脱炭素先行地域全体イメージ



ゼロを実現します。
また、民生部門以外の取り組みとして、ライトラインのゼロカーボントランスポートやEVバスなどを中心とした公共交通ネットワークの脱炭素化により、公共交通の利用促進を図る「ゼロカーボンムーブ」を構築することで、運輸部門のCO₂を削減します。

■脱炭素先行地域とは
2050年カーボンニュートラルに向けて、民生部門（家庭部門および業務その他部門）の電力消費に伴うCO₂排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用なども含めてその他の温室効果ガス排出削減についても、国全体の2030年目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する全国モデル地域です。

本市は、令和4年11月に環境省から選定されました。

■取り組みについて
対象エリア JR宇都宮駅東側のライトライン沿線。
対象施設 公共施設16施設、民間施設23施設、大学2施設、住宅約1500戸。
主な取り組み 本市が目指す「ネットワーク型コンパクトシティ(NCC)」構築の先行的エリアであるライトライン沿線において、対象施設に太陽光発電設備・蓄電池などを最大限導入し、電力の自家消費を推進する他、宇都宮ライトパワーによる再生可能エネルギーの一括調達と高度なエネルギーマネジメントを行い、2030年度までに、民生部門の電力消費に伴うCO₂排出の実質

EVタクシーの導入で、企業のイメージアップにもつながっています！

代表取締役就任したことを機に、国や市の補助金を活用して太陽光発電設備を導入し、保有するタクシーのうち5台を電気自動車に変更しました。

タクシーは、日中に太陽光発電設備で発電した電力を蓄電池に貯めて、夜間、充電して運行しています。不足時は電力会社から購入して補いますが、おおむね太陽光発電のみで営業することができています。

電気自動車を導入することで、これまでの企業イメージからの刷新や、企業ブランド力の向上の他、高騰する燃料費の軽減につながりました。

利用したお客さまからも「振動が少ない」「音が静か」と、ご好評いただいています。

従業員からは電気自動車の導入には当初、不安の

声もありましたが、現在では「静か」「自慢になる」と反応も良好ですし、社内の環境配慮の意識を高めることもできました。

残りの車両も電気自動車に変更していきたいと考えています。ライトラインに連動してタクシーも環境に配慮した交通手段でありたいと思います。



▲導入したEVタクシー



国東タクシー
代表取締役
天久保 昌子さん

その2 ゼロカーボンスクールの実現

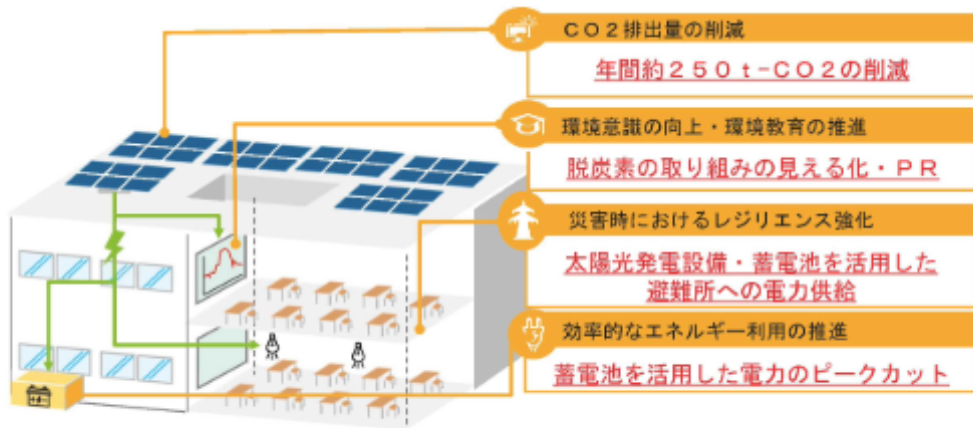
ゆいの杜小学校では、使用するすべてのエネルギーを脱炭素化する「ゼロカーボンスクール」の実現に取り組みます。

校舎屋上などへ太陽光発電設備・蓄電池を導入する他、太陽光発電で不足する電力は、宇都宮ライトパワーから、市内のごみ処理施設などで発電された再生可能エネルギー100%の電力を調達します。

また、市民の皆さんが太陽光発電で生み出したCO2削減量（クレジット）の活用（※）により、CO2排出実質ゼロを実現します（令和6年5月〜）。

今後このような取り組みを、脱炭素先行地域の市有施設において、順次実施していきます。

※ 市民の皆さんが設置する太陽光発電設備で生み出したCO2削減量（環境価値）を市に寄付いただき、国の制度によりクレジットにして売買するなど、有効活用する仕組み。詳しくは、市庁舎をご覧ください。ID 1005269



脱炭素先行地域における取り組み

その1 ゼロカーボンムーブの構築に向けたゼロカーボントランスポートの実現

世界でも類を見ない取り組み

昨年8月に開業したライトラインは、家庭ごみなどの焼却によるバイオマス発電や、家庭用太陽光発電などの地域由来の再生可能エネルギー100%で走行する、「ゼロカーボントランスポート」を実現しています。



年間最大約9,000 t（一般家庭で約1,600世帯分）のCO2削減！

本市では、ゼロカーボンムーブを構築するため、ゼロカーボントランスポートの取り組みに加え、次のことに取り組んでいます。

▼バスや地域内交通のEV化、電動アシスト自転車などの導入の促進（EVバスは2030年までに158台の導入を予定）。

公共交通の積極的な利用や、電気自動車への切り替えの検討など、できることから取り組みましょう。



ライトライン通勤で快適な生活を送っています！

ライトラインが開業することを聞き、移動が便利になるのではと、その沿線に引っ越すことを決めました。これまでは自家用車で通勤していたので、渋滞などの影響で到着に1時間程度かかっていましたが、ライトラインでの通勤に変えたことで、現在は、40分程度に短縮されました。ライトラインは発車時間が決まっているので、朝も余裕を持って準備ができますし、通勤中は趣味を楽しむなど、以前より時間を有意義に使うことができるようになりました。通勤手段を変更し、生活が豊かになったように感じます。

また、休日にもライトラインを使ってJR宇都宮駅周辺に出掛けるようになり、自家用車を使わずに出掛

ける、環境に優しい移動ができています。少し環境に優しい行動を意識し始めたことで、自宅のエアコンの温度など、以前よりも環境に配慮する意識が強くなったような気がします。

ライトラインへ乗り換えるだけで環境に優しい暮らしにつながるのなら、ライトラインに乗り換える人がもっと増えるといいですね。



ライトラインで通勤する
前住 美子さん

市民の皆さんへ

公共交通の利用の他、ごみの削減や分別の徹底、食品ロスの削減、太陽光発電設備の導入、EV車への乗り換えなど、脱炭素化に取り組んでみませんか。

市民向けの補助制度

- 家庭用生ごみ処理機設置費補助制度 ⑩1005120
▼家庭から出る生ごみの減量化・資源化を推進するため、家庭用生ごみ処理機を購入し設置した人に、購入費の一部を補助します。
- ごみ減量課 ☎(632)2414
- 家庭向け脱炭素化促進補助金 ⑩1030875
▼再生可能エネルギーや自立分散型エネルギーの普及に向け、太陽光発電設備や蓄電池などの導入を

- 推進するため、対象機器の導入費用を補助します。
- 環境創造課 ☎(632)2403
- 雨水貯留・浸透施設設置費補助金 ⑩1025931
▼雨水の貯留タンクや浸透施設を設置していただける市民・事業者を対象に補助金を交付します。
- 工事受付センター ☎(633)3164



太陽光発電設備と蓄電池で電力を無駄なく利用しています！

私は、環境に優しい取り組みへの関心が強く、約20年前に自宅を建築した時に太陽光発電設備を導入しました。

また、このたび、市の「家庭向け脱炭素化促進補助金」を活用して、自宅に蓄電池を設置しました。

自宅は現在、オール電化となっていて、火を使わないため安全性は高いです。太陽光発電設備・蓄電池を導入し、発電した電気を充電したり、自宅より効率的に使う意識が強くなったりして、電気の使用をマ

ネジメントするようにしています。

今後は、各家庭での太陽光発電設備などの導入が進むとともに、災害時に太陽光で発電した電気を地域で分かち合うなど、電気がうまく使用されることを願っています。



宇都宮 一紀さん

未来のために、私たちにできることは？ 読者の声をお聞かせください

広報うつのみやは、年に数回編集します。55ページのがきで、テーマに対するご意見をお寄せください。
広報うつのみや+
カーボンニュートラルなまち宇都宮の実現 ⑩1033657
についての問い合わせ先
環境部環境創造課
☎(632)2418、☎(632)3316
☎0715@city.utsunomiya.tochigi.jp



本市では、デコ活宣言を行っています！

「デコ活」は、2050年カーボンニュートラルおよび2030年度の削減目標の実現に向けて、国民・消費者の行動変容、ライフスタイル変革を強力に後押しするための新しい市民運動で、脱炭素化(Decarbonization)と環境に優しい(Eco)を含む「デコ」とその活動・生活を組み合わせた言葉です。

- デコ活宣言の内容
▼製品、サービス、取り組みを通じてデコ活を後押しします。
- ▼生活・仕事の中で、デコ活を実践します。



▲環境部
デコ活課

日々の暮らしや社会活動の中で、脱炭素化の取り組みを実践していくことは、地球環境を守ることももちろん、健康的で快適な暮らしの実現や企業価値の向上などのメリットが期待できます。

今後とも、今を生きる市民と、未来を生きる子どもたちの誰もが豊かで幸せに暮らすことができるまちづくりを力強く進めてまいりますので、市民・事業者の皆さんも、一緒に取り組んでまいります。



宇都宮市長
佐藤 栄一

カーボンニュートラルの実現に向けた 市民・事業者の取り組みを紹介します



カーボンニュートラルの実現に向けた支援制度や補助金制度などを設けていますので、皆さんも制度を活用して、脱炭素に取り組んでみませんか。

事業者の皆さんへ

業種や事業形態によって、温室効果ガス排出源や対策はさまざまです。

まずは、事業活動における温室効果ガス排出状況を把握・見える化し、対策方法を検討するなど、脱炭素経営への第一歩を踏み出しましょう。

脱炭素経営を始める3つの方法

- 1可能な限り、エネルギー消費量を削減する
▼機器や設備の更新・使い方の見直し、AI・IoT(*)などを活用し徹底した省エネ管理を推進することによって、消費エネルギーの最適化を図ることも有効です。
* Internet of Things の略で、さまざまな物をインターネットでつなぐ技術。
- 2エネルギーの低炭素化を進める
▼太陽光発電設備や太陽熱温水器、バイオマスボイラーなどを利用する。
- 3電化を推進する
▼EV車への転換、厨房・給湯のヒートポンプなどを利用する。

事業者向けの補助制度

- 宇都宮市中小企業向け融資制度 ⑩1006829
▼中小企業者の信用を補完し、低利で有利な融資を受けられるよう融資制度を設けています。
- 商工振興課 ☎(632)2433
- 環境保全型農業直接支払交付金 ⑩1025383
▼意欲ある農業者が農業を継続できる環境を整え、農業が本来有する自然循環機能を維持・増進することを目的に、環境保全に効果の高い営農活動を支援します。
- 農林生産流通課 ☎(632)2466

脱炭素経営で社内の環境意識が高まっています！

当社は、20年前からISO14001(※1)を取得するなど、環境保全活動に取り組んでいます。

事業におけるCO2排出削減量をスギの木に置き換えてCO2排出削減を図る「スギの木チャレンジプロジェクト」などの脱炭素経営に取り組む中、2015年に国連サミットで「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、2030年を期限とするSDGsの達成に向け、今後の活動に勢いを付けるため、脱炭素経営の具体的なかつ高い目標として、新たにSBT認定(※2)に挑戦しました。

市の補助制度を活用してSBT認定に取り組むことで、従業員の環境に配慮する意識がより一層高まりました。さらに、環境保全のため会社の近隣の清掃活動に長年取り組み、活動を通じて近隣住民との交流が生まれ、従業員が自主的に掃除をしたり、気配りができる

人材が増えたりするなどの効果を感じています。また、社内で新しいことに挑戦する機運の高まりや、企業価値の向上による優秀な人材獲得にもつながりました。脱炭素経営として、今後はEV車の導入や、太陽光発電設備をはじめとするグリーンエネルギーの導入を検討しています。

当社だけでできることに限りはありますが、カーボンニュートラルに向けてできる活動を地道に続けていきたいと考えています。

- ※1 環境マネジメントシステムに関する国際規格。
- ※2 信頼性の高いSBTiが認定する、5～15年先を目標として企業が設定する、温室効果ガス排出削減目標。



第一測定
代表取締役社長
小嶋 俊明さん